

米田佐知子 自己紹介



子どもの未来サポートオフィス 代表

<http://kodomomirai-so.com/>

- 子ども・子育て支援の社会資源をつなぐ
- 地域の中で人と人がつながり支えあう関係づくりを進める各種取組みを応援。

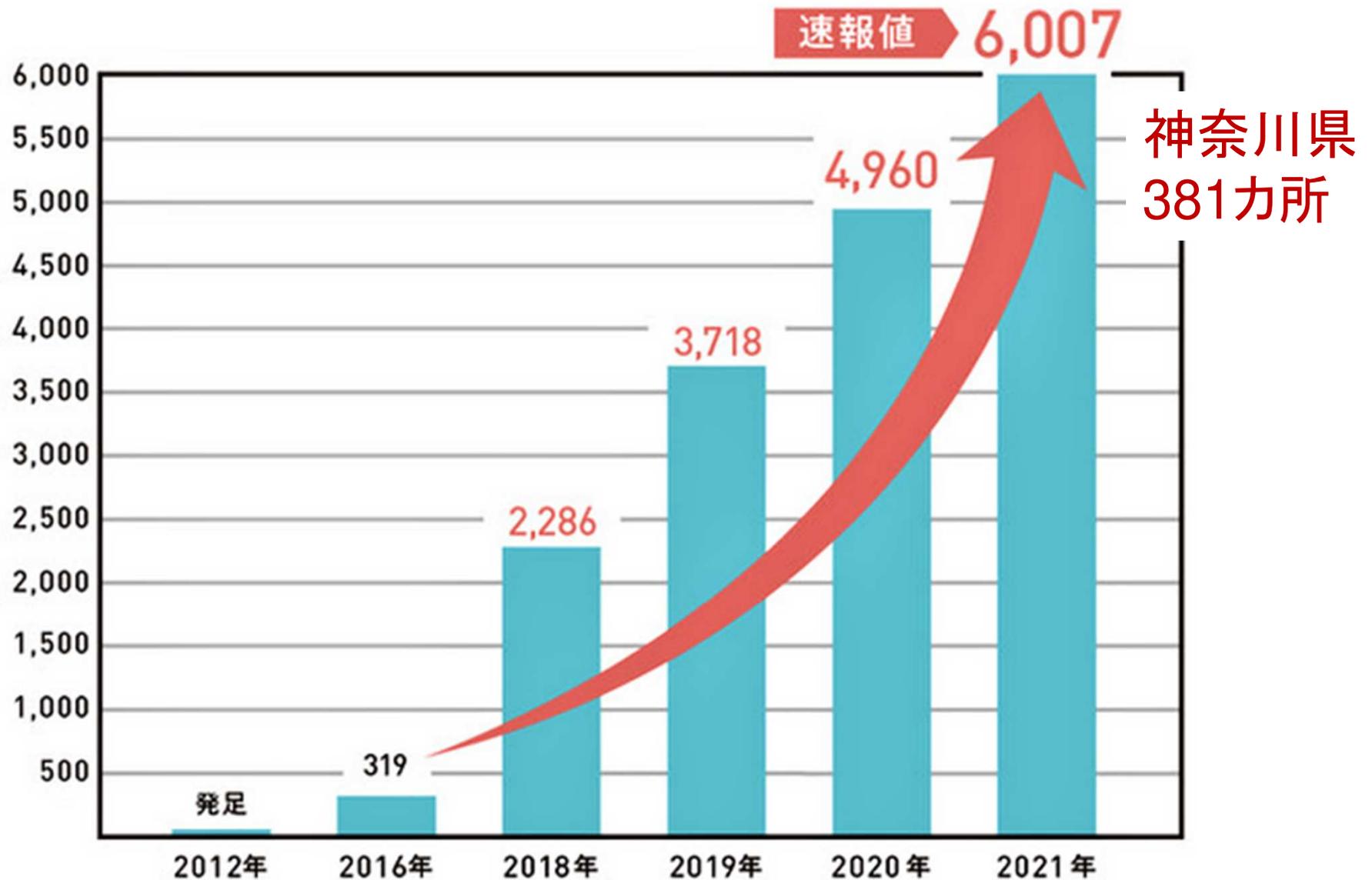
<関わる組織・委員会など>

- * 関東学院大学・東京家政大学非常勤講師
- * 神奈川県総合計画審議会計画推進評価部会委員
- * かながわ協働推進協議会副座長
- * 神奈川こども食堂・地域食堂ネットワーク世話人
- * かながわ生徒若者支援センター運営委員(高校内居場所カフェネットワーク)
- * NPO法人子育てひろば全国連絡協議会役員
- * 横浜コミュニティカフェネットワーク世話人

お話したいこと

- 1 子どもの居場所活動の意義
- 2 コロナ禍の中での子ども達

全国のこども食堂数 (把握されている限り)





「こども食堂」

子どもが1人でも来られる場所で、
地域の人が、
無料・低額で食事を提供している

こども食堂以前からある 「子どもの居場所」・「一緒に食べる」活動



子どもの「生きる力」を育むもの

食べる・学ぶ・遊ぶ
社会とのつながり

ながら相談



様々な子ども支援・子どもの居場所活動・事業

- 「こども食堂・地域食堂」
- 「学習支援活動」
- 「冒険遊び場(プレイパーク)」
- 外国につながる子どもの「母語教室」「学習支援活動」
- 不登校・ひきこもりや障がいのある子どもの「フリースペース」
- 「コミュニティカフェ」「地域交流拠点」
- 障がいのある子どもの「放課後デイサービス」
- 学童保育
- 児童館、公民館
- 学校内での居場所活動(「校内居場所カフェ」)

など



子どもの育ちを支える活動

地域・学校コミュニティ

健全育成

×

テーマコミュニティ

多様な課題・事情

課題の多様化・複雑化

こどもの居場所活動の背景

3つの「子どもの貧困」

経済的な貧困

措置・早期支援

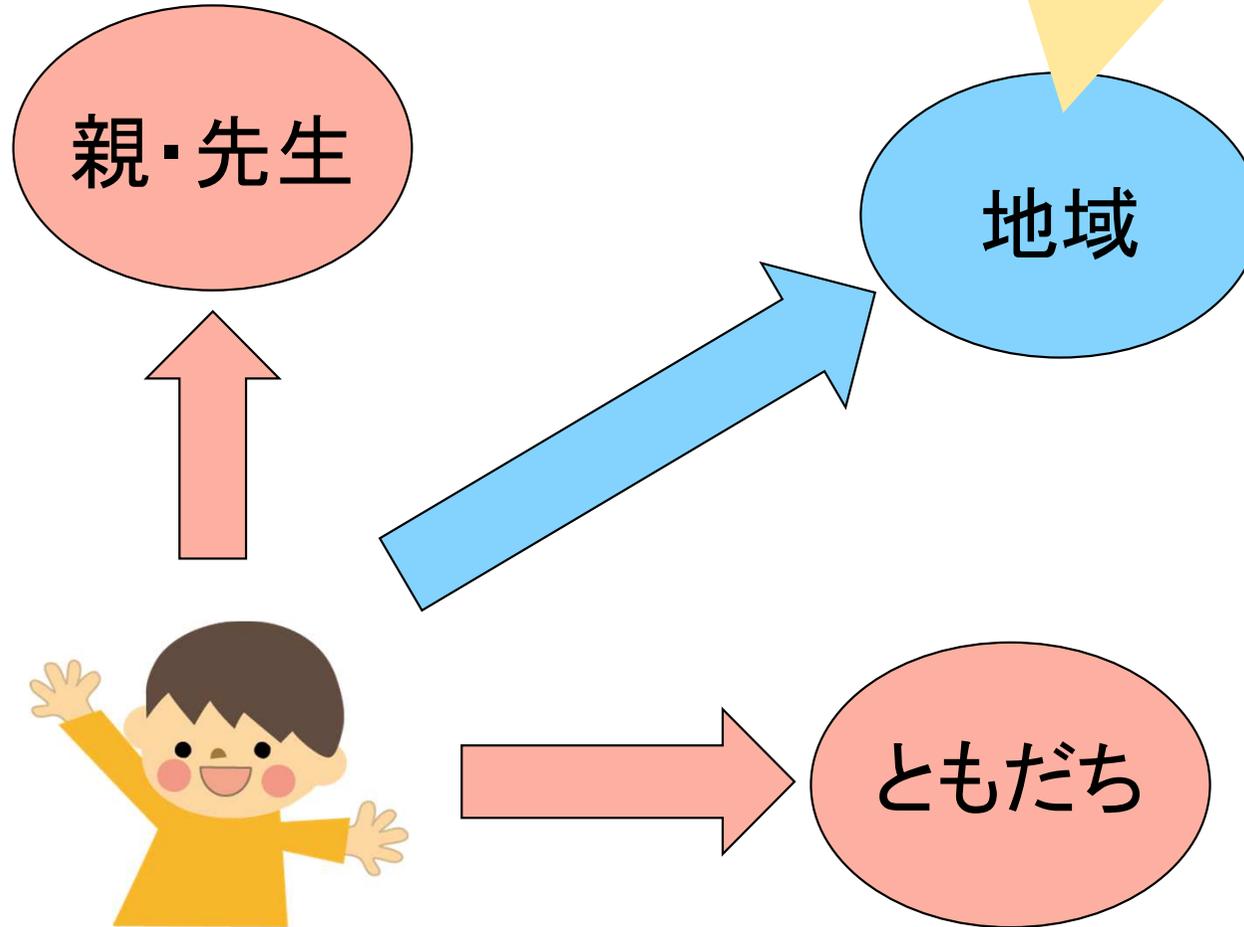
関係性の貧困

つながり・居場所

経験の貧困

食育・体験

子どもが育つには 多様なひとの関わりが必要



異年齢の多様な人と過ごす子どもは**1割以下**

子どもの場や人の繋がり“選択肢”を増やすことの重要性

— 多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど **幸福感が高い**

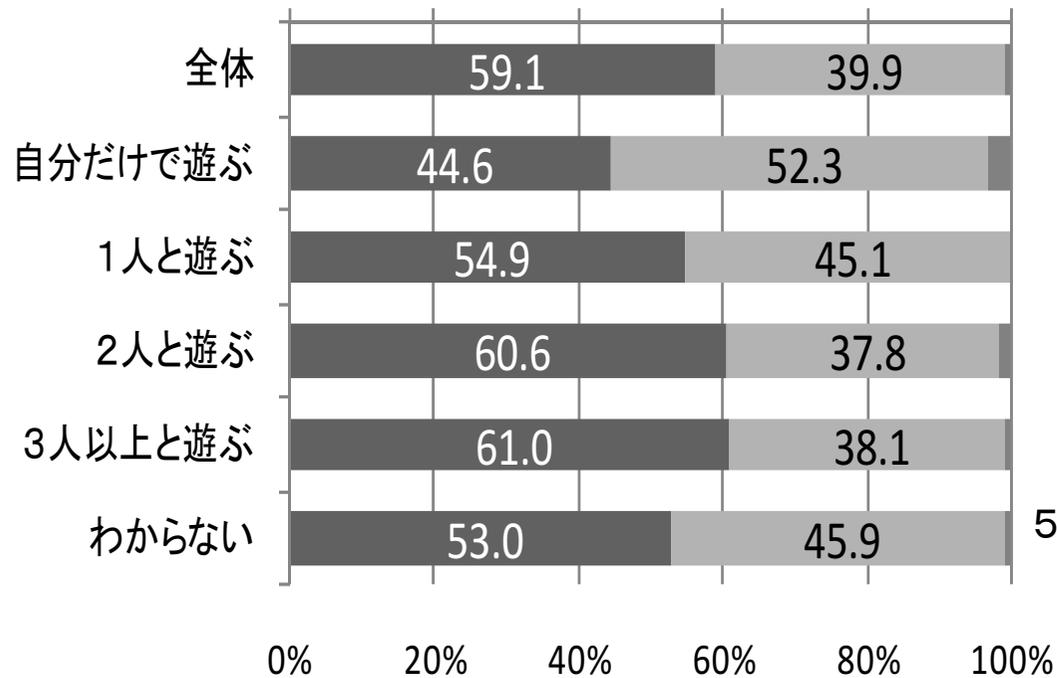


図 一緒に遊ぶ人数別幸福感 (p<0.5)

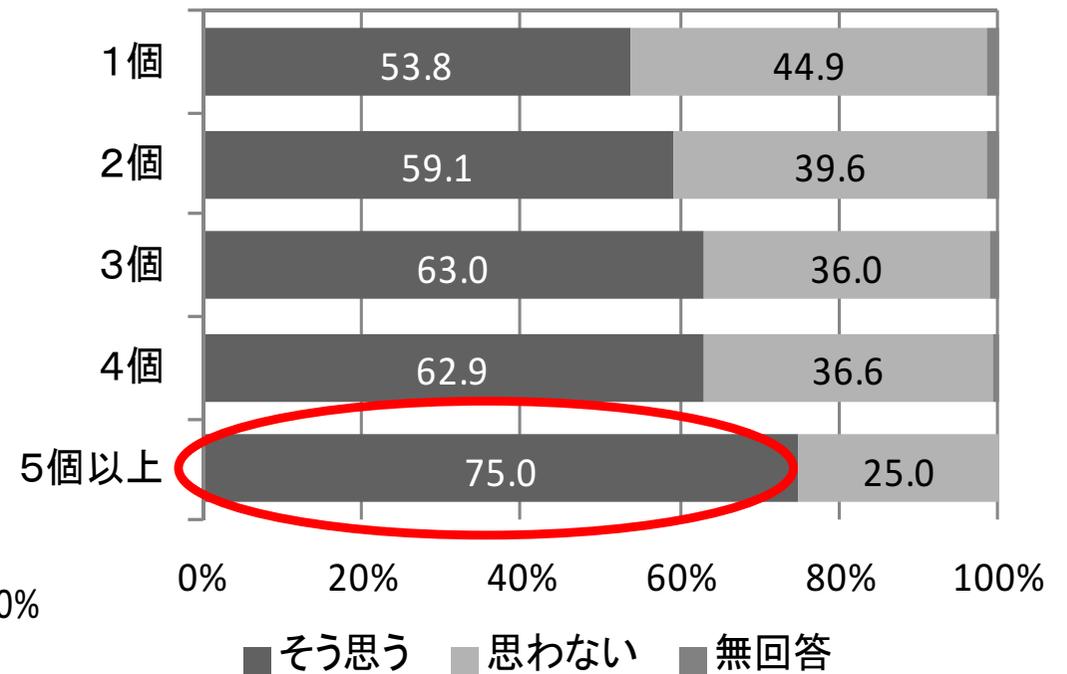
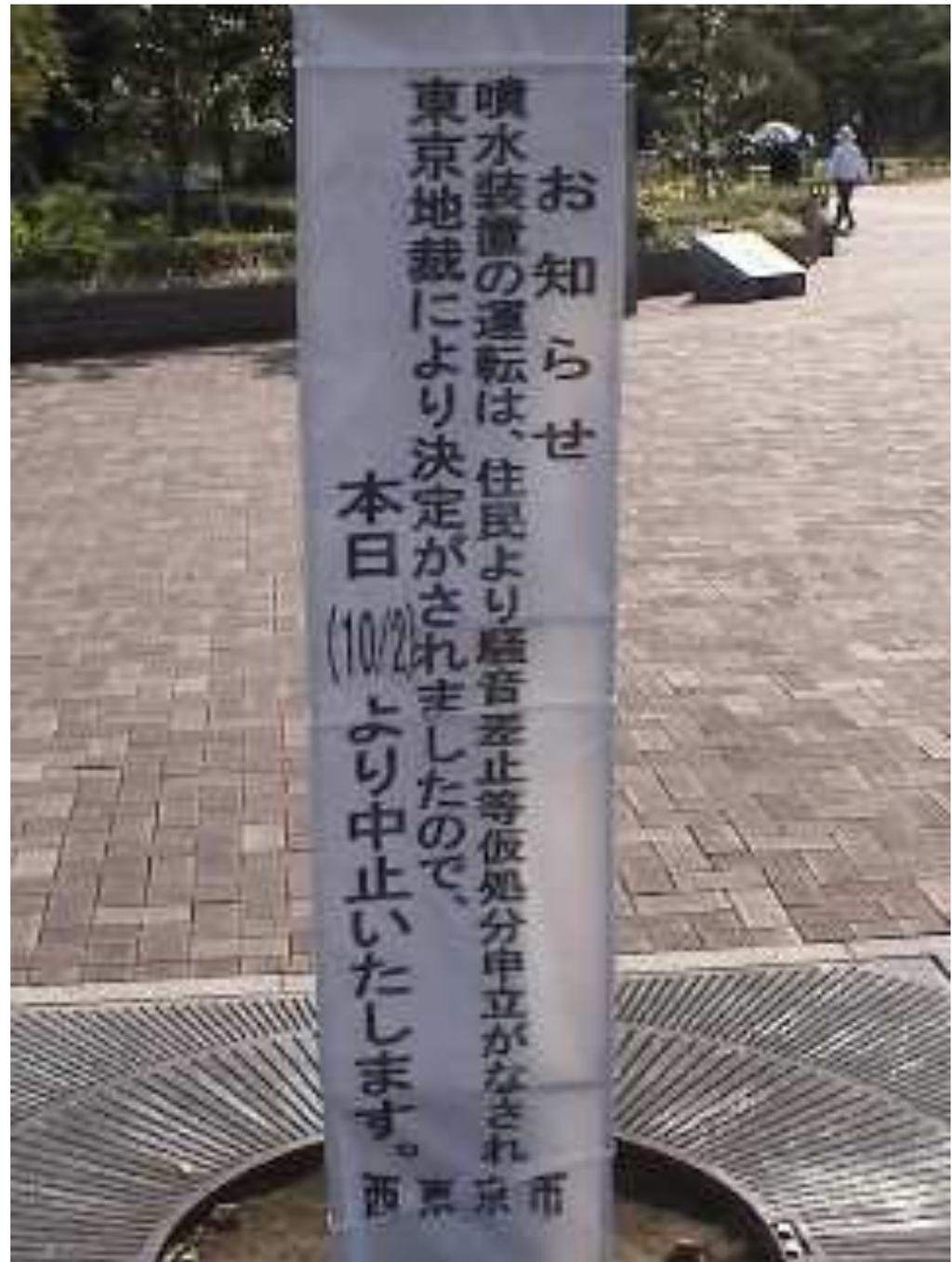


図 遊ぶ場所の選択数別幸福感 (p<0.1)

子どもの声は 騒音？



親子で公園、役所に苦情も 遊具閉鎖、集団禁止の看板—新型コ ロナ

新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛が続く中、住宅街の公園では親子連れの姿が目立つ。保育園や学童保育が休みになり、公園は貴重な居場所になりつつあるが、役所には「緊急事態宣言が出ているのに」と苦情が寄せられることもあるという。

「接触8割減」どうしたら こんな行為が高リスク—専門家、対面飲食避けて

「集団での利用はご遠慮ください」。ブランコや噴水を備えた東京都荒川区の公園には、入り口に注意を促す看板が設置された。子どもが密集しがちな滑り台などには、使用できないように「立ち入り禁止」の黄色いテープがぐるり。公園を管理する区には「子どもを遊ばせられない」などと苦情が寄せられるが、担当者は「感染拡大の危険性はできるだけ排除したい」と理解を求め。

杉並区では、「緊急事態宣言が出ているのに遊んでいる。どうにかできないかとの苦情が寄せられる」（担当者）という。

一方、小さな子どもを抱える親にとっては、深刻な問題だ。毎日のように2歳の子どものと公園を訪れるという荒川区の30代男性会社員は「家にいる子どものストレス発散を考えると話す。杉並区の40代女性も2人の子どものと公園に。「夫が在宅勤務になり、子どもが家にいると仕事の邪魔になるから」と説明した。



立ち入り禁止のテープが巻かれた公園の遊具 = 21日午前、東京都荒川区

2020年04月22日14時32分



“巣ごもり騒音”の苦情 都内で多発 外出自粛 続き 新型コロナ

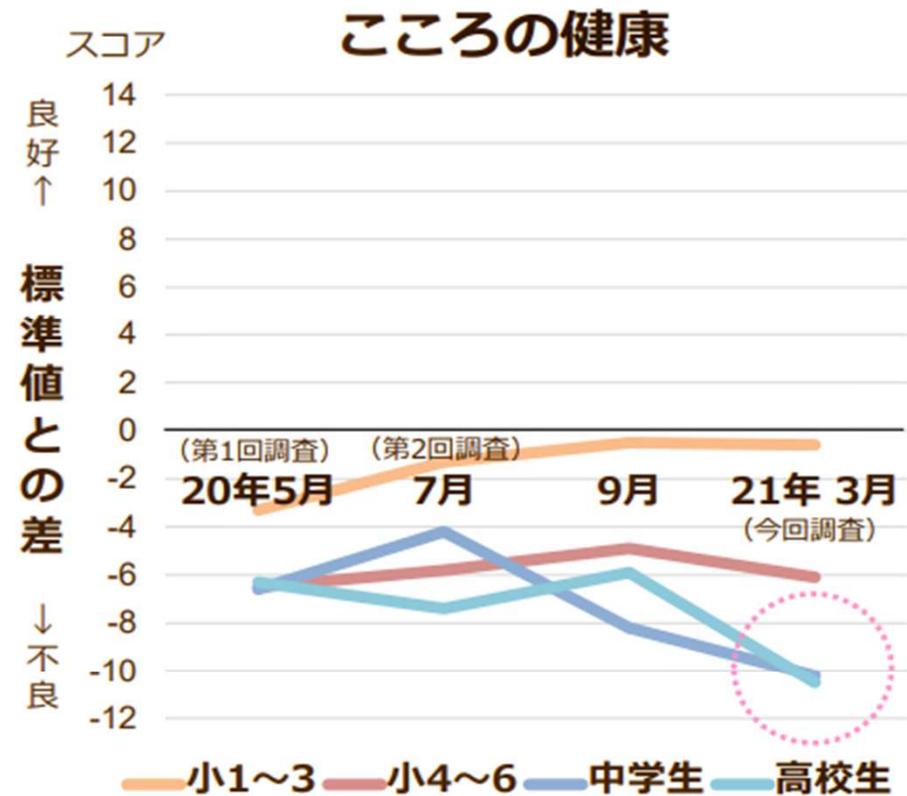
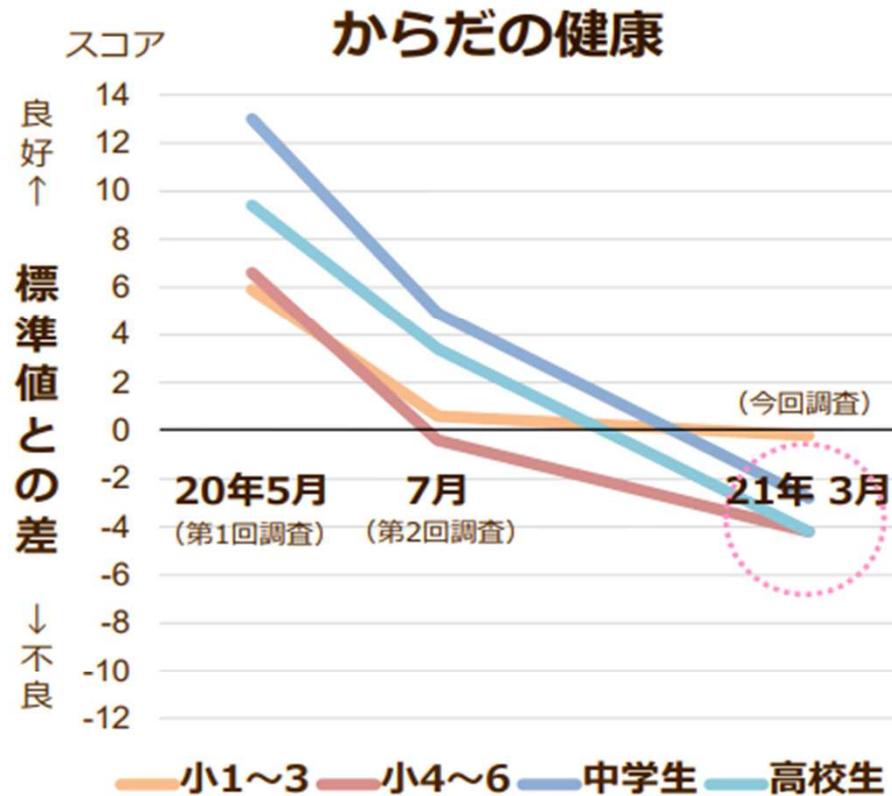
2020年5月16日 19時28分

新型コロナウイルスの影響で自宅で過ごす時間が長くなる中、騒音に関する通報が先月、都内で1万7000件に上り、過去5年間で最も多くなったことが警視庁への取材でわかりました。いわば“巣ごもり騒音”の苦情が多発している状況で、専門家は「今は家にじっとしているので音から逃げられないが、住民間で関係性を作って乗り越えてほしい」としています。

からだとこころの健康

こどもに
ききました

※1. 日本語版「KINDL-R」尺度により身体的健康（左）と精神的健康（右）を測定
 ※2. 縦軸は、各回・各年齢グループの平均値から過去文献の標準平均値を引いた値



こどもたちの心身の健康が低下傾向*にある可能性も。

*第1～3回（身体的健康は第1～2回）コロナ×こどもアンケートの同調査項目の結果と比較（ただし対象者集団は同一ではない）

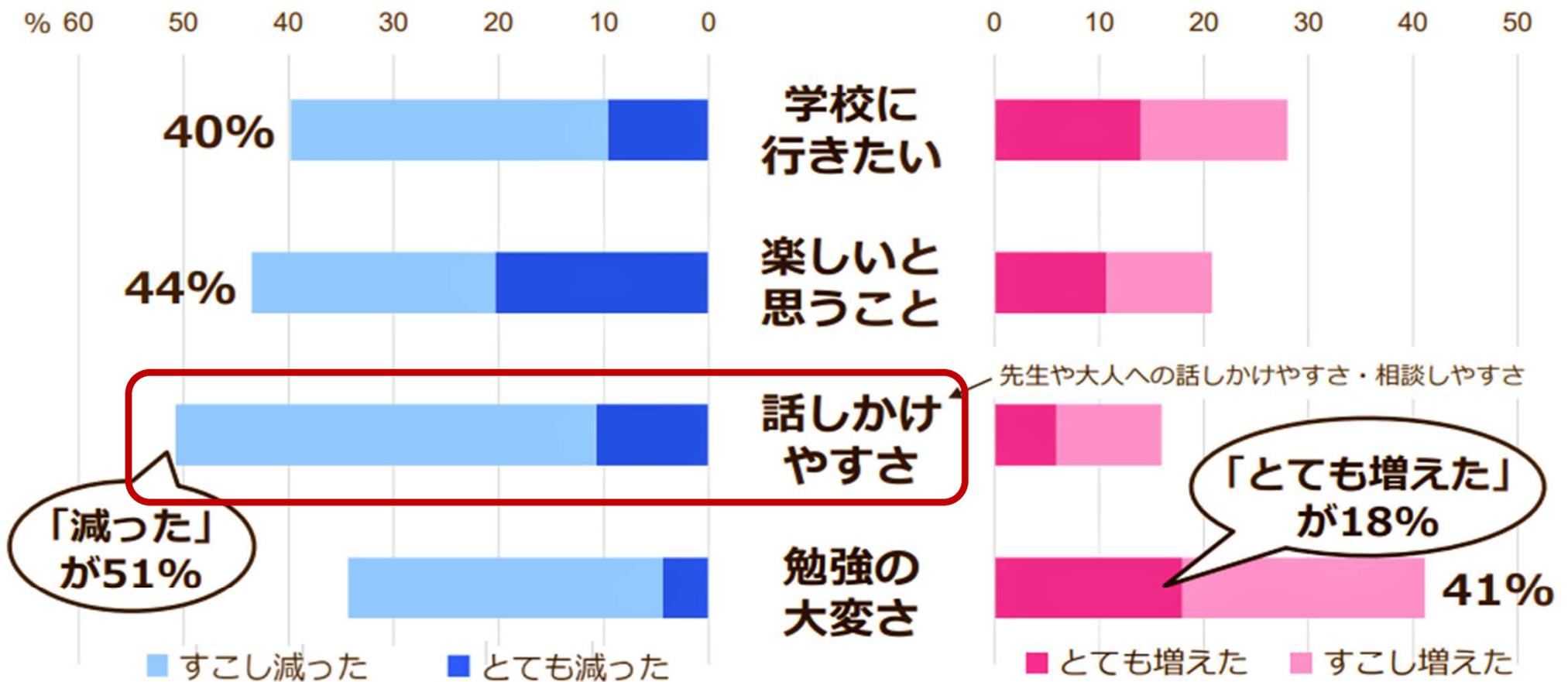


こどもの回答を集計

コロナの影響 《学校・その他》

こどもに
ききました

※コロナのせいで・おかげで…の変化として回答されたもの



「減った」
が51%

「とても増えた」
が18%

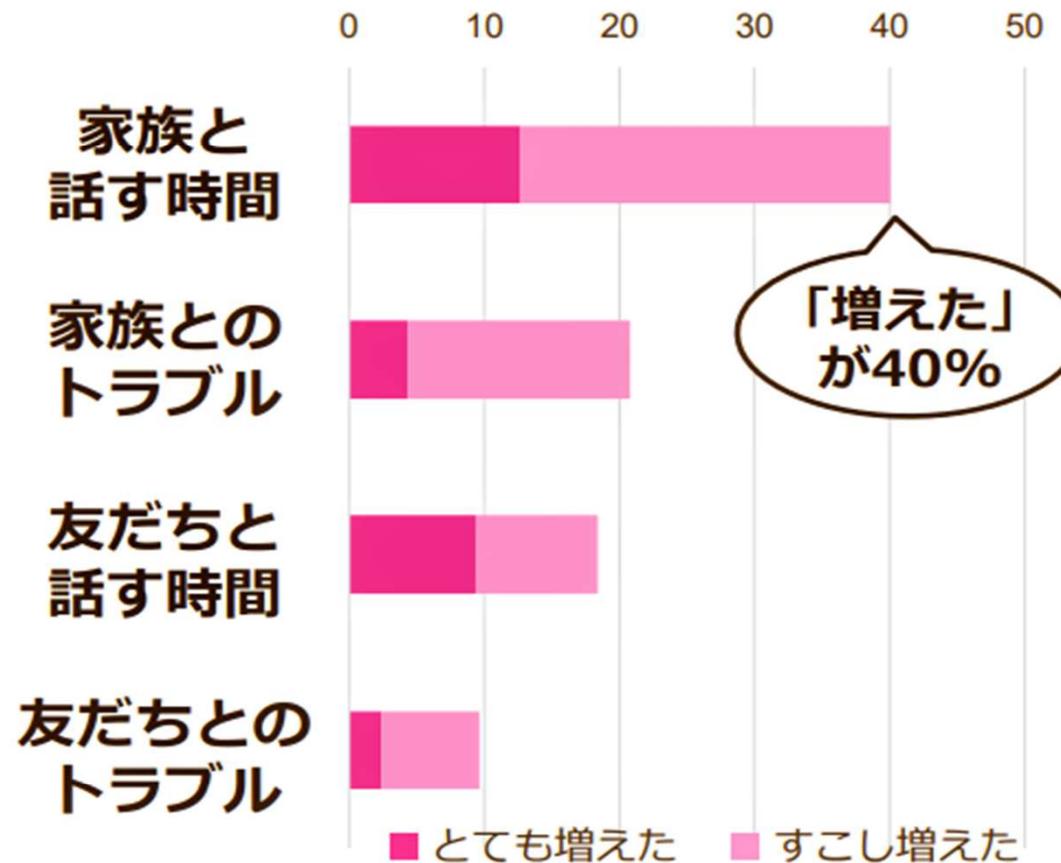
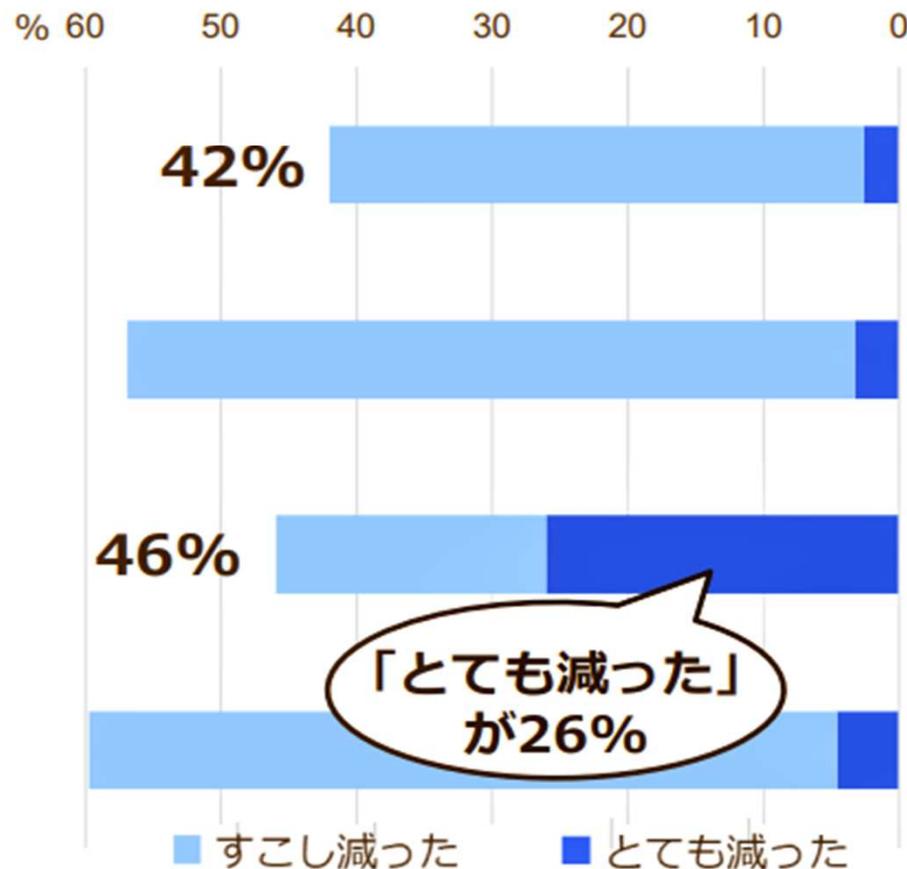


こどもの回答を集計

コロナの影響 《家族・友だち》

こどもに
ききました

※コロナのせいで・おかげで…の変化として回答されたもの



1年をふり返って思うこと

こどもに
ききました

なんでもコロナだから……ばかりで
自分の行動や気持ちを制限されている気がした。
大人は大人で、いろいろ大変なのかなと思って、
相談しづらくなってしまった。

みんな常に笑っているときも
心の中でイライラしている気がした。

(小6・女子)

我慢をいっぱいした
1年だった。
(小5・女子)

こころの限界が
近づいている。

(中1・男子)

コロナで厳しい制限のある中で
何とかその中で楽しさを
見つけようとした。

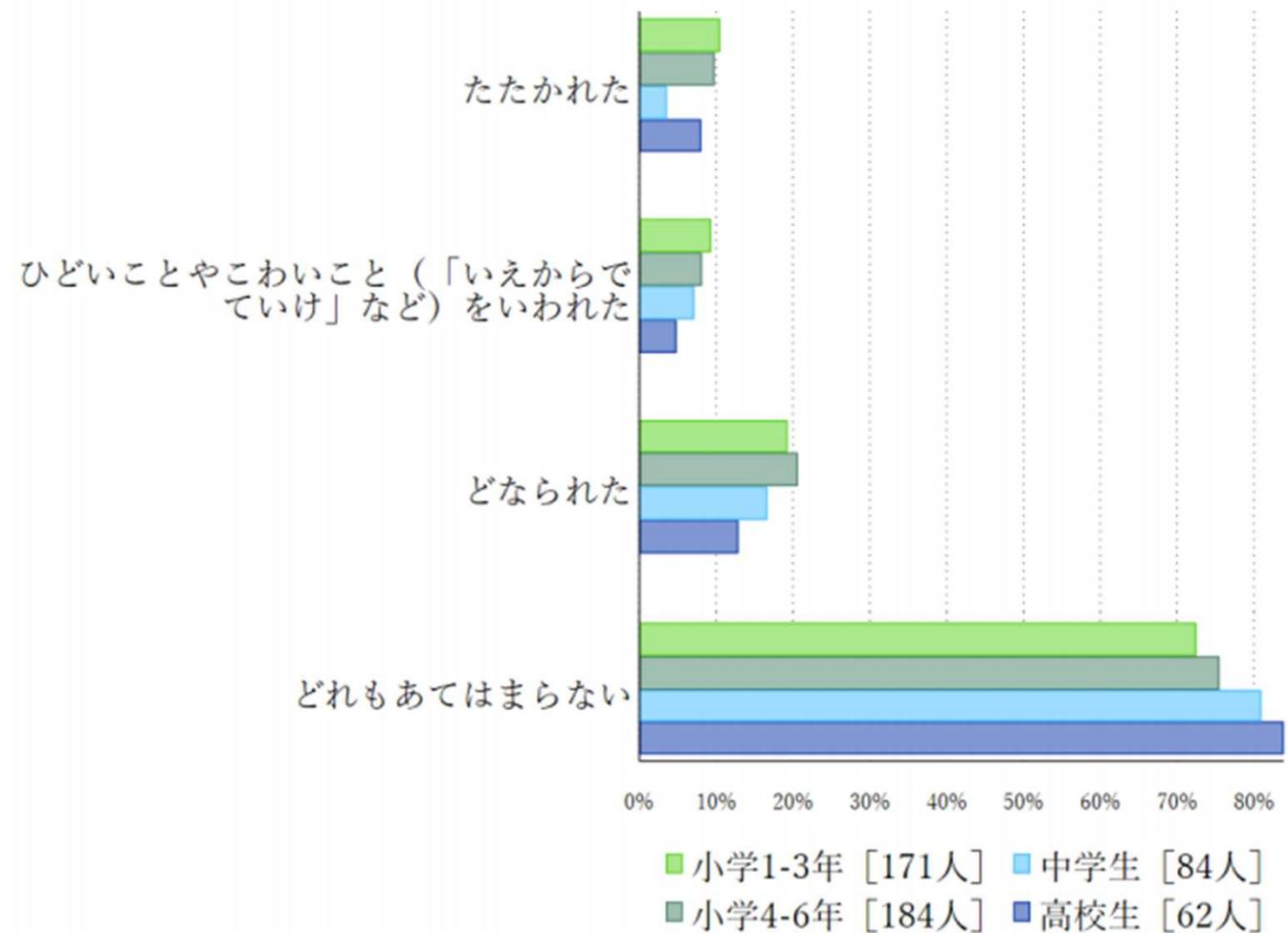
(中3・男子)

両親との会話やハグや
握手などをする事で安心する
と思うことが増えたと思います。

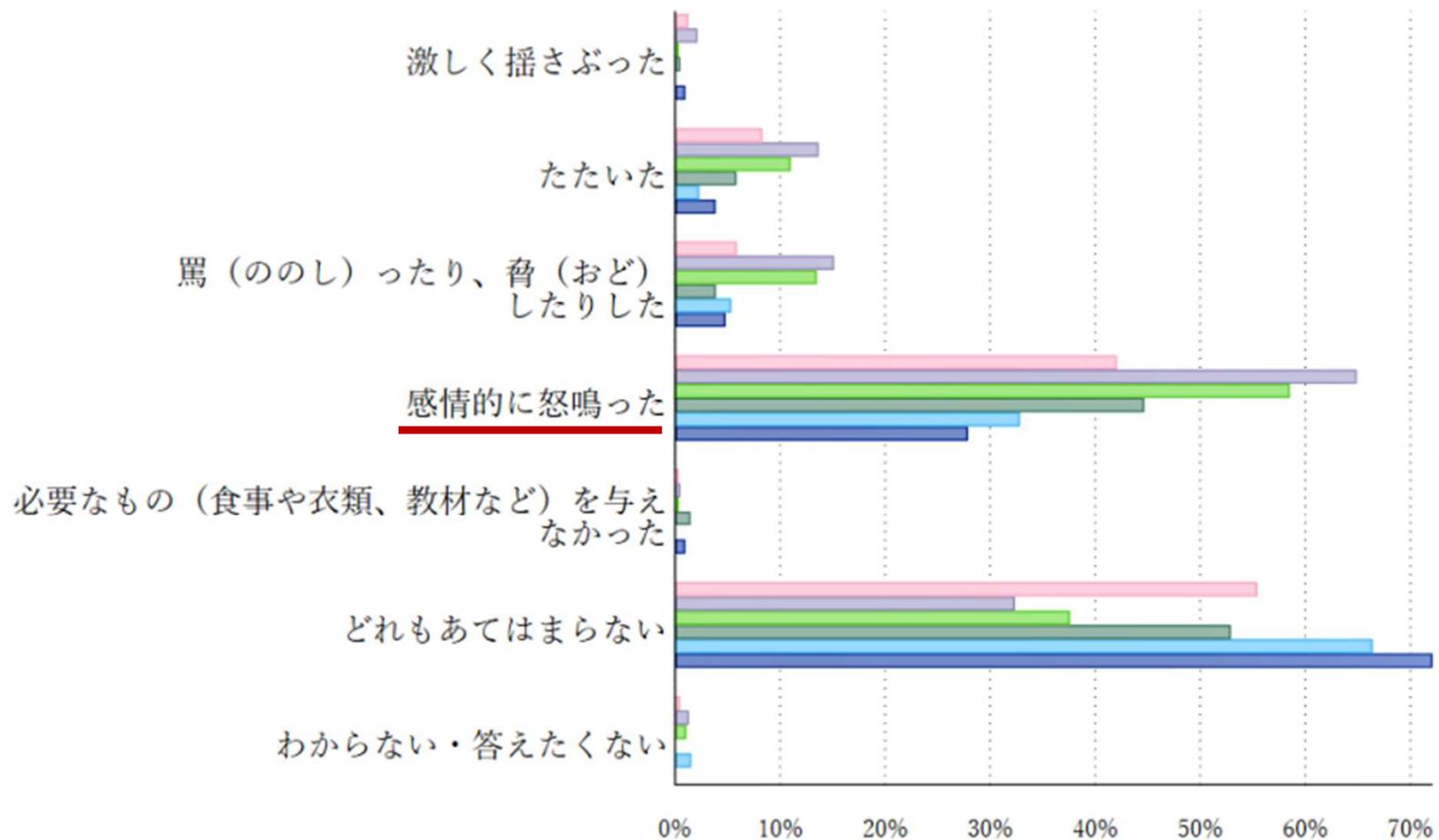
(中2・女子)



こども さいきん 1かげつのおうちでのあなたにあてはまるものをぜんぶえらんでくだ
さい。

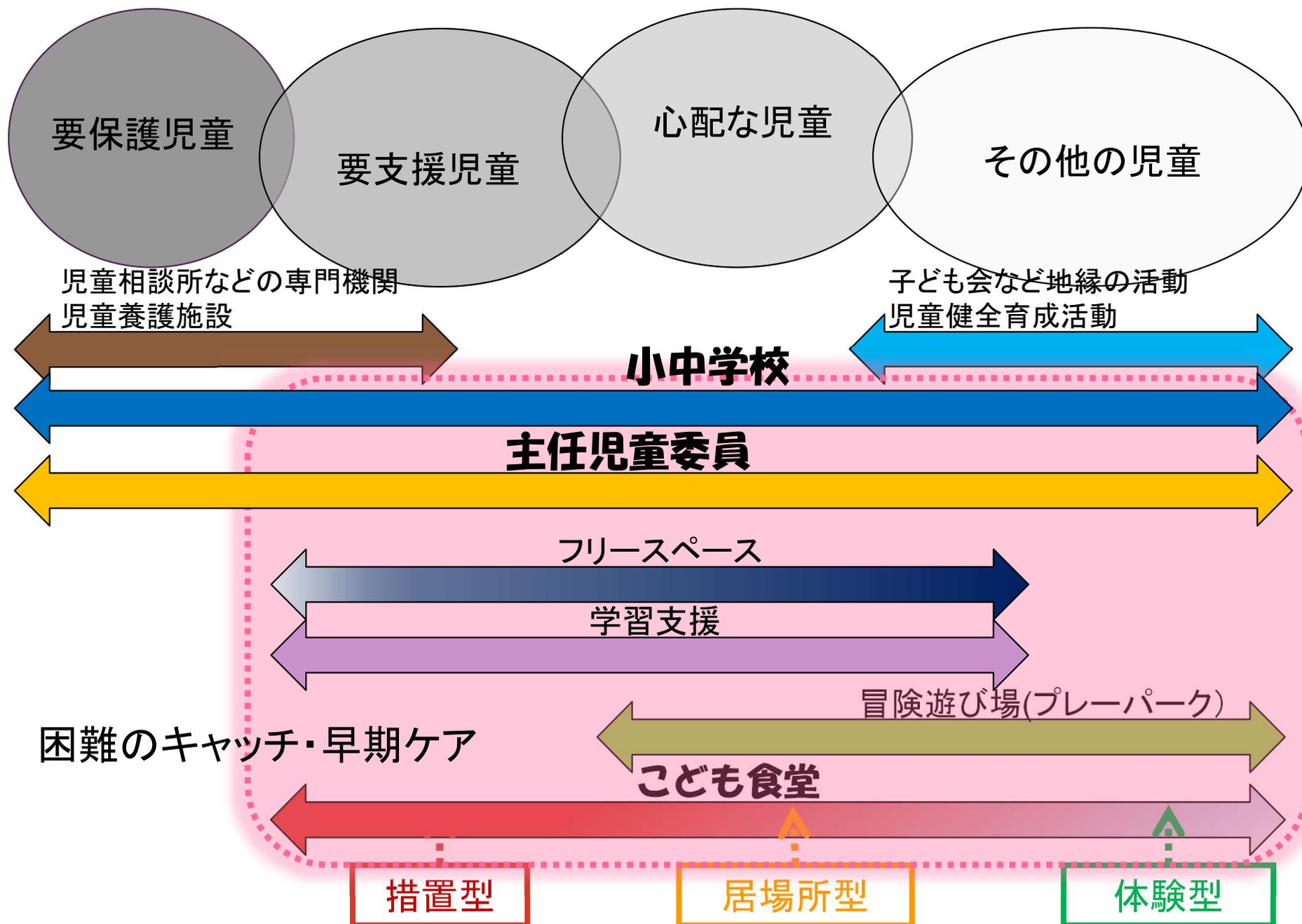


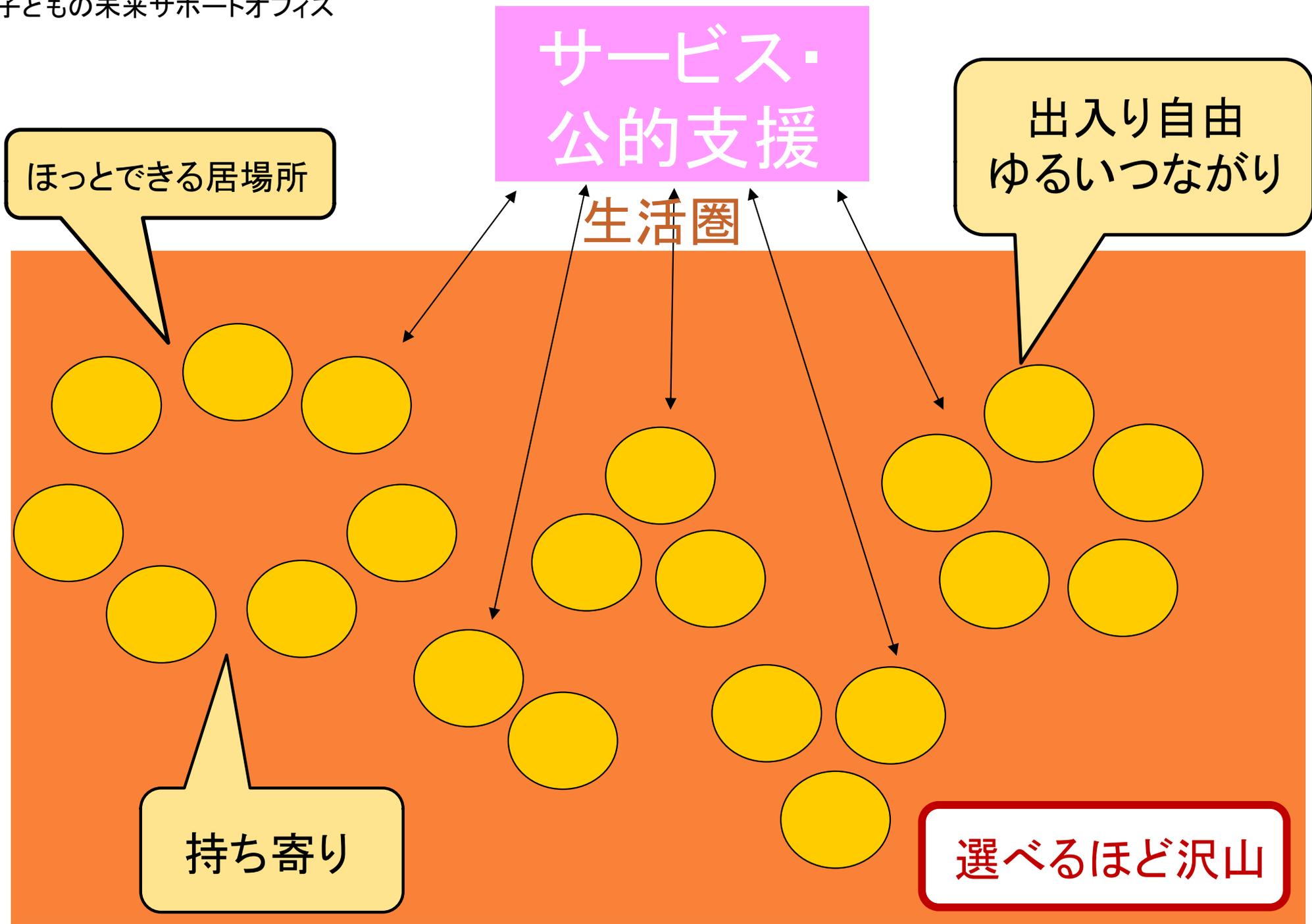
保護者 あなたやご家族のおとなが、お子さまに対して、次のようなことをしたことがありますか？
 あてはまるものを、すべて選んでください。



■ 0～2歳児 [1277人]
 ■ 小学4-6年 [206人]
■ 3～5歳児 [615人]
 ■ 中学生 [131人]
■ 小学1-3年 [282人]
 ■ 高校生 [104人]

子ども支援のどの部分を担うのか





ポイントは自発性・多様性

顔見知りを増やす



「子どもを気にかける大人」の
つながりづくり

子どもの課題の多様化・複合化



点から面へ～連携・チームで対応



まちで 子どもを 育てよう

まちで育てる

地域のモノ・ヒトが
子育てに生きる

まちで育つ

まちのモノ・ヒト・コトと
子どもがつながる

誰もが
生きやすい
まちに

まち保育

まちが育つ

子どもと共に、
まちが豊かに
育っていく

まちが育てる

「まちの子ども」に
関心をもつ人が
地域に増えていく

愛着の形成

子どもが当たり前
持っているはずのもの
こどもの権利として…



学校



家



地域力と 子どもの居場所

子ども食堂



商店



町会 商店街
おまつり 多世代交流



銭湯



子ども



とまり近所



公園



まち工場
職業体験



塾・学習支援



お医者さん



図書館



スポーツ・ならいごと



児童館



「だんだん」
近藤博子さん
作成